

暴風雪による大規模停電に伴った活動から見えたもの

—北海道登別市の暴風雪による大規模停電時の活動後のアンケート分析—

伊藤春樹・鳥居一頼 (NPO 法人北海道ボランティアコーディネーター協会)・藤江紀彦 (登別市社会福祉協議会)・坂本大輔 (登別市社会福祉協議会)・橘沙苗 (登別市社会福祉協議会)・岩山絵理

Activity Analysis that Accompanied the Disaster

— Questionnaire Analysis of Activity after the Large-scale Power Outage due to Snow Storm of Noboribetsu in Hokkaido —

Haruki Ito, Kazuyori Torii (Hokkaido Volunteer Coordinators Association),
Norihiko Fujie (Social Welfare Council in Noboribetsu), Daisuke Sakamoto (Social Welfare Council in Noboribetsu), Sanae Tachibana (Social Welfare Council in Noboribetsu), Eri Iwayama

要旨：平成24年末に暴風雪によって、送電線の鉄塔が倒れて一つの町のほとんどが停電に見舞われるという事態に陥った。東日本大震災の記憶も新しいこの時期だけに、この町の住民は防災対策として大きな活動を展開した。今回紹介するのは、この短期間の災害に対して、住民がいかに関わり活動し、住民自身の活動をどのように考え、判断し今後に備えるかを考える最高の場面であった。

今回のアンケートは平成24年11月27日から4日間の停電の後、年末から平成25年の1月にはアンケートを実施しているため、記憶に新しい事柄に対するものであったことを踏まえて、分析し考えた。これが本当の住民の意識を反映しているかどうかは分からないが、少なくとも直近のアンケートであり、この分析が今後の災害対策に対して何かの役に立つことができれば幸いである。

Keywords：災害対策, 住民活動, ボランティア活動, ボランティアコーディネート
Disaster Recovery, Volunteer Activities, Volunteer Coordination

1. はじめに

平成24年11月27日から30日の4日間の暴風雪によって発生した大規模停電に対する支援活動は、寒冷地である北海道ならではの問題であった。この停電が、北海道であっても夏季であったならば、冬であってもそれほど寒い地域でなければ大した問題でもなかった。

とにかく、現代社会において電気エネルギーが、想像以上に重要であることを体験させられた災害であったと言わざるを得ない。電力の重要性をそれとはなしに理解していても、寒冷地の停電という問題が現実となって、住民一人ひとりが電力の重要性を、身を持って体験したことになった。電力を利用している住民の理解は、現実に直面して初めて実感したが、電力を供給する会社（北海道電力）も住民同様に電力の重要性を本当に理解していたとは言えない。電力会社の社員も仕事を終えて自宅に帰れば一人の住民であることから、住民としての理解が低いことは、電力会社の意識も同じであると考えの方が正しいと思われる。

電力会社の認識の甘さは、停電の規模とか停電期間の長さ、停電の事実の連絡方法などすべての面において露呈した。停電の知らせは FAX にて市役所に届けられていたが、市役所の FAX は停電で受信できていなかった。この事実から考えても、現実の広域停電がどのような結果をもたらすか、電力会社側も住民側も認識していなかった。

同じように暖房も石油燃料があっても電源がなくなるとは稼働できないタイプの暖房が一般的なものになっていて、電源がなくても機能を果たす暖房器具は倉庫の奥深くに放置されていた。さらに、電源がなくなっても水源が確保できるかどうかも重要な事柄であった。

エネルギーを電源に頼り切っている今日の社会にあって、この大規模停電がもたらした問題点と住民の活動をしっかりと分析し、今後の対策に利用できるようにしたいものである。

そこで、この 4 日間の活動を社会福祉協議会の報告を簡潔にまとめた上で、今回行われた活動を振り返って反省し、将来の対策を考える一助として社会福祉協議会が「暴風雪による大規模停電に関する緊急アンケート」を分析することによって、問題点があるとすればどこに問題点があったのかを明確にし、その対策を考える手段の一つとして活用されることを期待したい。

2. アンケートの実施方法と基本項目の分析

この調査は、登別市内にお住まいの町内会長、福祉部長、民生委員児童委員、福祉委員、協力員、サロンサポーター（代表・担当者含む）、ケアマネ連絡会に所属するケアマネジャーおよび福祉サービス事業所職員の方々を対象として、災害後僅か1ヶ月後の平成24年12月26日から約1,000通のアンケート（資料参照）を配布し、平成25年1月17日までに郵送回収する方法で行った。この結果、合計472通の回答があった（回答率：47.2%）。

回収されたアンケートの回答を Excel に入力し、VBA を用いてまとめ、分析した。回答者は、男性が 291 名、女性が 174 名で、無記入者が 7 名であった（表 1）。

表 1. 回答者の性別

	男性	女性	無記入	合計
人数	291	174	7	472
%	61.7	36.9	1.5	100.0

表 2. 回答者の被災状況別人数と割合

	被災していない	被災した 1日以内に復旧	被災した 2日以内に復旧	被災した 3日以内に復旧	被災した 4日目に復旧し	その他	無記入	合計
人数	19	119	160	41	115	5	13	472
%	4.0	25.2	33.9	8.7	24.4	1.1	2.8	100.0

回答者の被災状況を調べると、表 2 のようになるが、半数以上が 2 日以内に復旧したことが明らかであるが、4 日目に復旧した回答者も 24.4% もあり、被害が長期にわたっていた人も多いことが理解できる。

回答者の居住校区別人数と割合（表 3）では、幌別東小学校区が 10% 未満と極端に少ないことを除けば、全居住地に平均的に広く分布している。したがって、調査対象者として協力をお願いした人々が登別市全域にわたって広く分布していることが確認できる。

表 3. 回答者の居住校区別人数と割合

校 区	人数	%
登別小学校区 (登別温泉町・中登別町・上登別町・カルルス町・登別東町・登別本町・富浦町)	80	16.9
幌別東小学校区 (幸町・幌別町)	23	4.9
幌別小学校区 (札内町・来馬町・新栄町・千歳町・常盤町・中央町)	48	10.2
幌別西小学校区 (柏木町・富士町・新川町・片倉町・鉦山町)	48	10.2
青葉小学校区 (桜木町・緑町・青葉町・若山町1～2丁目)	60	12.7
富岸小学校区 (若山町3～4丁目・富岸町・大和町・新生町・栄町3～4丁目)	84	17.8
若草小学校区 (若草町・美園町)	55	11.7
鷺別小学校区 (栄町1～2丁目・鷺別町)	64	13.6
無記入	10	2.1
合計	472	100.0

回答者が居住校区全域に広く居住していることで、居住校区ごとに被害状況がどのようなものであったか調べることもできる。表4にその結果をまとめたが、登別小学校区、幌別東小学校区、幌別小学校区、幌別西小学校区の半数近くの回答者が4日間停電したことになる。特に、幌別小学校区のほとんどの回答者が4日間停電にさらされたが、他の地区は約半数の回答者が4日間、残りの半数が3日間とか2日間の停電に見舞われた。一方、青葉小学校区と富岸小学校区は多くの回答者が1日以内で復旧している。残りの若草小学校区と鷺別小学校区は2日以内に復旧している。

図1に登別市の校区地図を示したので、どの地域が何日間の停電にあったか理解できるので、それをもとに地図を思い浮かべながら、分析結果を理解していただきたい。

表 4. 回答者の居住校区別被害状況の人数と割合

	登別小学校区 (登別温泉町・中登別町・上登別町・カルルス町・登別東町・登別本町・富浦町)	幌別東小学校区 (幸町・幌別町)	幌別小学校区 (札内町・来馬町・新栄町・千歳町・常盤町・中央町)	幌別西小学校区 (柏木町・富士町・新川町・片倉町・鉦山町)	青葉小学校区 (桜木町・緑町・青葉町・若山町1～2丁目)	富岸小学校区 (若山町3～4丁目・富岸町・大和町・新生町・栄町3～4丁目)	若草小学校区 (若草町・美園町)	鷺別小学校区 (栄町1～2丁目・鷺別町)	無記入	合計
被災していない	0	0	1	0	5	5	4	4	0	19
1日以内に復旧	3	0	0	1	51	55	3	4	2	119
2日以内に復旧	13	1	9	20	2	20	44	48	3	160
3日以内に復旧	18	9	3	2	0	2	2	5	0	41
4日目に復旧	41	13	34	23	0	0	0	1	3	115
その他	3	0	0	0	0	1	1	0	0	5
無記入	2	0	1	2	2	1	1	2	2	13
合計	80	23	48	48	60	84	55	64	10	472

ることは明らかで、どの程度の割合の人が安否確認などを行い、組織運営にどの程度の人数が必要なのかを考えた時に、安否確認だけが重要なわけではない。とにかく役職についている人の回答であるために、このことにも配慮しながら読み取る必要がある。

表 5. 男女別、担っている役割別人数とその割合

	男性	女性	無記入	合計
町内会長	62	4	4	70
福祉部長	16	16	0	32
民生委員児童委員	58	35	0	93
福祉委員	44	53	0	97
福祉協力員	44	12	1	57
ケアマネジャー	6	17	0	23
福祉サービス事業所職員	1	2	0	3
きずな推進委員	36	14	0	50
サロンサポーター	30	33	1	64
その他	70	29	1	100
合計	367	215	7	589
	割合 (%)			
	男性	女性	無記入	合計
町内会長	16.9	1.9	57.1	11.9
福祉部長	4.4	7.4	0.0	5.4
民生委員児童委員	15.8	16.3	0.0	15.8
福祉委員	12.0	24.7	0.0	16.5
福祉協力員	12.0	5.6	14.3	9.7
ケアマネジャー	1.6	7.9	0.0	3.9
福祉サービス事業所職員	0.3	0.9	0.0	0.5
きずな推進委員	9.8	6.5	0.0	8.5
サロンサポーター	8.2	15.3	14.3	10.9
その他	19.1	13.5	14.3	17.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表 6. 男女別、担っている役割の数別人数とその割合

	男性	女性	無記入	合計
担っている役割の数				
1種類	216	126	5	347
2種類	39	27	1	67
3種類	12	9	0	21
4種類	8	2	0	10
5種類	1	0	0	1
無記入	15	10	1	26
合計	291	174	7	472
	割合 (%)			
	男性	女性	無記入	合計
担っている役割の数				
1種類	74.2	72.4	71.4	73.5
2種類	13.4	15.5	14.3	14.2
3種類	4.1	5.2	0.0	4.4
4種類	2.7	1.1	0.0	2.1
5種類	0.3	0.0	0.0	0.2
無記入	5.2	5.7	14.3	5.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表 7. 男女別, 安否確認をした人数とその割合

	安否確認の有無 (人数)			合計
	あり	なし	無記入	
男性	160	116	15	291
女性	90	71	13	174
無記入	4	1	2	7
合計	254	188	30	472
	割合 (%)			
	あり	なし	無記入	合計
男性	55.0	39.9	5.2	100.0
女性	51.7	40.8	7.5	100.0
無記入	57.1	14.3	28.6	100.0
合計	53.8	39.8	6.4	100.0

この安否確認の必要性を感じるに至った経緯は色々と考えられるが, 少なくとも停電の情報や現状の情報をどのように入手したかを調べることは重要である. 表 8 で明らかなように, 情報の入手源で最も高いのは男女ともにラジオであるが, それほど大きな差があったわけではないが, テレビと家族・親族・知人等からの連絡を情報源とした人の割合に男女差がみられ, テレビは男性が多く, 家族・親族・知人は女性の方が多い. 男性の方が公共的な情報源から, 女性が個人的なつながりから情報を得ていると捉えることもできる.

表 8. 男女別, 情報入手方法別人数とその割合

	男性	女性	無記入	合計
テレビ	75	25	2	102
ラジオ	187	110	2	299
携帯電話・インターネット	72	33	0	105
地域の町内会・民生委員から情報提供	61	34	1	96
家族・親族・知人等からの連絡	55	55	2	112
所属する組織からの情報提供	60	25	0	85
市広報車	51	25	2	78
防災無線	1	0	0	1
その他	30	17	0	47
無記入	7	5	1	13
合計	599	329	10	938
	割合 (%)			
	男性	女性	無記入	合計
テレビ	12.5	7.6	20.0	10.9
ラジオ	31.2	33.4	20.0	31.9
携帯電話・インターネット	12.0	10.0	0.0	11.2
地域の町内会・民生委員から情報提供	10.2	10.3	10.0	10.2
家族・親族・知人等からの連絡	9.2	16.7	20.0	11.9
所属する組織からの情報提供	10.0	7.6	0.0	9.1
市広報車	8.5	7.6	20.0	8.3
防災無線	0.2	0.0	0.0	0.1
その他	5.0	5.2	0.0	5.0
無記入	1.2	1.5	10.0	1.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

男女とも大多数が停電後一日目に安否確認をとっている。これは、安否確認を色々なきっかけで行うことになったが、どのようなきっかけであっても迅速に安否確認を行っている。迅速な対応が災害時の対応としては最も重要であることは分かり切っていることで、これが実践されていることは、住民にとっては力強い(表9)。

表 9. 男女別, 安否確認をした時期別人数

	男性	女性	無記入	合計
停電前	4	3	0	7
停電後1日	106	63	2	171
停電後2日	36	15	2	53
停電後3日	6	3	0	9
停電後4日	0	1	0	1
通電後	1	1	0	2
無記入	7	4	0	11
合計	160	90	4	254

安否確認を行った対象者に関しても、男女別の割合に大きな差異がない。安否確認に対して、どの対象者が特に必要と考えたかに関して男女に関して差がないことを示している。とにかく、多くの人の認識としては、高齢者世帯に気を使っている。ただ、高齢者の数が多いことがこの結果である。わずかではあるが、子育て世帯に対する安否確認が、若い世代にどのように受け止められたか興味深い部分でもある(表10)。

表 10. 男女別, 安否確認対象者別割合

	男性	女性	無記入	合計
一人暮らし高齢者世帯	42.2	39.8	50.0	41.5
高齢者夫婦世帯	24.0	22.4	12.5	23.3
日中一人暮らし高齢者世帯	11.0	16.3	37.5	13.3
障がい者世帯	10.1	6.1	0.0	8.5
子育て世帯	1.7	3.1	0.0	2.2
疾病のある方がいる世帯	4.9	5.1	0.0	4.9
その他	5.8	6.1	0.0	5.8
無記入	0.3	1.0	0.0	0.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

安否確認件数に関しては、男女ともに多くの人が10件以内の確認を行っているが、これは日常的に地域住民とどのような関係を持っているかによって、影響される部分が大きく、単に数値だけでは結論できることはできないが、男女別の割合を見ると交互に女性、男性となっていることは面白い(表11)。

表 11. 男女別, 確認件数別割合

確認件数	男性	女性	無記入	合計
1~10件	47.5	55.6	75.0	50.8
11~20件	19.4	7.8	0.0	15.0
21~30件	8.8	15.6	0.0	11.0
31~40件	6.9	2.2	25.0	5.5
41~50件	3.1	7.8	0.0	4.7
50件以上	10.6	5.6	0.0	8.7
無記入	3.8	5.6	0.0	4.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

安否確認を何日間行っていたか男女別に調べたのが表12である。しかし、停電した期間の長さは表4に示

したように学校区によって異なるために、その人の住んでいる地域、その人の担っている役割やその人の日常生活のあり方などに関係するために一概に議論することは危険である。また、安否確認を行った人々の置かれている状況が、一回の安否確認で十分なのか数回の安否確認を必要としたかわかれる部分もあるので、このような要因を思い浮かべながら理解してほしい。

表 12. 男女別、安否確認を行った日数別人数

	男性	女性	無記入	合計
一日	45	19	2	66
二日間	68	41	2	111
三日間	30	10	0	40
四日間	15	18	0	33
無記入	2	2	0	4
合計	160	90	4	254

表 13. 男女別、安否確認を誰と訪問したか別人数

	男性	女性	無記入	合計
自分1人で	96	63	1	160
町内会役員	67	19	2	88
福祉委員・協力員	18	4	0	22
民生委員児童委員	23	5	1	29
ケアマネジャー	5	7	0	12
ホームヘルパー	0	3	0	3
きずな推進委員	5	0	0	5
サロンサポーター（代表・担当者含む）	3	0	0	3
その他	13	15	1	29
無記入	1	1	1	3
合計	231	117	6	354

何日間安否確認を行ったかは別に、1日に安否確認にかけた時間は男性が1時間以内と2～3時間が30分以内の倍の人がいるが、女性は30分以内、1時間以内、2～3時間がほぼ同じ人数いる。今回の災害に応じて安否確認を行ったともいえるが、日常的な活動に加えて活動していると考えられる（表14）。

表 14. 男女別、安否確認に要した一日の最大所要時間別人数

	男性	女性	無記入	合計
30分以内	24	22	2	48
1時間以内	50	23	1	74
2～3時間	58	21	0	79
4～5時間	13	10	0	23
6時間以上	9	8	1	18
その他	2	1	0	3
無記入	4	5	0	9
合計	160	90	4	254

結論としていえることは、今回のアンケート調査では、情報の収集方法や担っている役割に関して多少の男女差がみられたが、支援活動において大きな性差がみられない。今回のような緊急時における活動に性差があるという考えに立って分析することよりも、如何に迅速に一人の人として困っている人に対して支援に駆けつけることができるかが重要なのであって、性差そのものの意味を緊急時の支援活動に求めるつもりはもともとなかったが、このように分析することに意味がないということが示せたことは、意味があると思う。

4. 担っている役割の意味

どのような活動にしる、効率的にするためには組織的な動きというものが必要となる。組織的な行動をするためには組織内の役割が緊急時にどのような意味を持ったかを調査することは重要である。ただ、最初に注意しておかなければならないのは、この調査が「この調査は、登別市内にお住まいの町内会長、福祉部長、民生委員児童委員、福祉委員、協力員、サロンサポーター（代表・担当者含む）、ケアマネ連絡会に所属するケアマネジャーおよび福祉サービス事業所職員の方々を対象とします」として行われたので、回答者は何らかの役割をすでに担っていた人々であって、表 15 の役割の数が無記入な人は、回答を忘れたか、答えたくなかったと考えることもできる。

回答者 472 名中 20.7%の回答者が、二つ以上の役割を担っている。一人の人が多くの役割を担っていることをどのように考えるか、それぞれの立場によって色々あると思われませんが、この考え方の違いは別にして、今回の活動においてどのような結果が得られるか調べてみたい。

表 15. 担っている役割の数と安否確認の有無

	安否確認の有無			合計	%
	有り	無し	無記入		
1 種類	168	154	25	347	73.5
2 種類	47	19	1	67	14.2
3 種類	18	1	2	21	4.4
4 種類	9	1	0	10	2.1
5 種類	1	0	0	1	0.2
無記入	11	13	2	26	5.5
合計	254	188	30	472	100.0

担っている役割の数によって、安否確認の活動に参加した割合の変化を表 16 に示したが、担っている役割の数が多いほど安否確認をした割合が増加している。ただし、前に述べたように、二つ以上の役割を担っている人はわずかなので、多くの役割を担うほど安否確認に参加した割合が高いと言えるほどのものではないが、複数の役割を担っている人の方が安否確認に参加している割合が高いことは確かである。別の考え方をすれば、このような災害時に積極的に活動できる人が、多くの役割を担っているということかもしれない。

表 16. 担っている役割の数別、安否確認の有無別割合

	安否確認			合計
	あり	なし	無記入	
1 種類	48.4	44.4	7.2	100.0
2 種類	70.1	28.4	1.5	100.0
3 種類	85.7	4.8	9.5	100.0
4 種類	90.0	10.0	0.0	100.0
5 種類	100.0	0.0	0.0	100.0
無記入	42.3	50.0	7.7	100.0
合計	53.8	39.8	6.4	100.0

役割を多く担っていると、自らの判断で自らばかりでなく役割を負っている組織全体の活動の方向性も決定していかなければならない可能性も高まる。特に組織をまとめる役割を演じなければならぬほどのこの傾向を役割から求められている。一方、担っている役割によって、ほかの組織から必然的に求められる活動というものもある。このような考え方をもって、表 17 に役割の数と安否確認を行うきっかけの数を集計した。表 17 の結果、一つひとつのきっかけ別にまとめても、それなりの意味が得られる。安否確認をするきっかけを記入していない人が多いが、災害時のきっかけは重要ではないのではなく、みんなが困っていることは明らかだと

考える方が当然なのかもしれない。

表 17. 役割の数別, 安否確認のきっかけの数

	安否確認を行ったきっかけの数				合計
	三つ	二つ	一つ	無記入	
1種類	3	18	168	158	347
2種類	2	8	41	16	67
3種類	0	6	14	1	21
4種類	1	1	7	1	10
5種類	0	0	1	0	1
無記入	0	1	10	15	26
合計	6	34	241	191	472

役割別の安否確認を行うきっかけ別の割合を表 18 に上げたが、民生委員・児童委員が最も自主性に富んでいると結論できるが、この役割を担っている人は、日ごろから住民の支援を自らの判断で行っていることがうかがえる。しかし、ケアマネジャーを除いてどの役割を担っていても半数以上の人自らの判断で安否確認の活動を行っている。役割と安否確認をするきっかけの関係は、回答者の役割に対する意識とか、活動に対する認識で大きく変化することを理解したうえで、アンケートの分析結果を理解しなければならないことを付記する。

このように担っている役割を分析してみると、緊急に起こった今回の災害においてもかなり組織的な動きになっているように考えられる。今少し、活動段階やアンケート作成段階で組織的活動という意識をもって行えば、もっと明確なことが明らかになったような感じがする。

表 18. 担っている役割別, 安否確認を行うきっかけ別割合

	自分自身	組織の指示	近隣からの声掛け	公的機関の要請	その他	合計
町内会長	60.8	17.6	1.4	10.8	9.5	100.0
福祉部長	54.5	18.2	6.1	9.1	12.1	100.0
民生委員児童委員	74.2	17.5	0.0	5.2	3.1	100.0
福祉委員	62.2	24.4	0.0	2.2	11.1	100.0
福祉協力員	55.9	29.4	5.9	2.9	5.9	100.0
ケアマネジャー	36.4	45.5	0.0	4.5	13.6	100.0
福祉サービス事業所職員	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
きずな推進委員	64.3	14.3	0.0	12.5	8.9	100.0
サロンサポーター	55.3	19.1	2.1	8.5	14.9	100.0
その他	52.5	19.7	11.5	4.9	11.5	100.0
合計	60.6	20.4	2.8	7.0	9.1	100.0

注) 福祉サービス事業所職員の回答者は3名のみ。ケアマネジャーは23名であるが、他の役割は50名を超えている。ただし、役割においてもきっかけにおいても複数回答はそのままカウントされている。

5. 情報入手の重要性

今回の停電は、登別市社会福祉協議会がある近くの鉄塔が倒れたことが直接の原因で起こったことであるが、電力がどのように送電されているか、送電線を張り巡らしたのは北海道電力であるので分かっているはずであった。従って、送電線の鉄塔が壊れたらどの地域が停電するかは分かり切っているようにも思える。以前、北海道電力の送電線の保守管理している人と話す機会があって、電柱一本一本に番号が規則的に付けられていて、電線が途中で切断された時でもすぐに駆けつける仕組みになっているという話を聞いたことがあった。今回の鉄塔は登別市社会福祉協議会の近くにあっても、登別市に供給する電線ではなく、どこか遠くに送電するため

のものと思ひ込み、社協職員も考えていたところもあったという。誰でも、鉄塔の倒壊が原因で停電が起こっているということを知っていれば、数日の時間が復旧には必要だと想像できるが、鉄塔ではなく末端の電柱一本が原因ならばそのうちに復旧するだろうと考えるのは当たり前のことである。

停電した当初は住民の避難が必要になるということも、住民への炊き出しが必要になるとも考えてはいなかった。前に述べた FAX の電源の問題もあって、登別市への北海道電力からの連絡が遅れた。支援を効率的に行うためにも、的確な情報が必要不可欠であることは、ここで再び述べるまでもない。

しかし、災害の原因によって情報伝達の手段が考えられない原因で利用できないかもしれないので、様々な情報入手の方法を日常的にチェックしておく必要がある。とにかく、今回の情報伝達の方法は携帯電話であったが、充電の問題が想像以上に重要であった。

今回アンケートに答えた人々がどのような手段で情報を入手していたか表 19 の合計欄に示した。ラジオが最も多く携帯電話・インターネットやテレビの倍から三倍である。ラジオは電源がなくても比較的アクセスしやすい方法であった。これは自然災害などほとんどの災害においても言われていることである。

表 19. 安否確認の有無別、情報の入手方法ごとの件数とその割合

	安否確認			合計
	あり	なし	無記入	
テレビ	75	25	2	102
ラジオ	187	110	2	299
携帯電話・インターネット	72	33	0	105
地域の町内会・民生委員から情報提供	61	34	1	96
家族・親族・知人等からの連絡	55	55	2	112
所属する組織からの情報提供	60	25	0	85
市広報車	51	25	2	78
防災無線	1	0	0	1
その他	30	17	0	47
無記入	1	1	1	3
合計	593	325	10	928
	安否確認			合計
	あり	なし	無記入	
テレビ	12.6	7.7	20.0	11.0
ラジオ	31.5	33.8	20.0	32.2
携帯電話・インターネット	12.1	10.2	0.0	11.3
地域の町内会・民生委員から情報提供	10.3	10.5	10.0	10.3
家族・親族・知人等からの連絡	9.3	16.9	20.0	12.1
所属する組織からの情報提供	10.1	7.7	0.0	9.2
市広報車	8.6	7.7	20.0	8.4
防災無線	0.2	0.0	0.0	0.1
その他	5.1	5.2	0.0	5.1
無記入	0.2	0.3	10.0	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

安否確認を行ったかどうかにかかわらず、地域の町内会・民生委員からの情報提供や所属する組織からの情報提供が多くなく、テレビやラジオ等の公共の情報提供機関からの情報が約半数を占める。各自がそれぞれの情報に基づいて安否確認を行っているといえるかもしれないが、安否確認など今回の災害に伴う活動に伴う情報のやり取りが少ないと考えることもできるが、情報の提供という意味をどのようにアンケート回答者が思っていたかも機会があるときに尋ねてみたいものである。

安否確認を行った人々がその結果をどのように利用したかは、ほかの人の活動にも影響を与えるので重要である。表 20 に示したように、26 名の人々は安否確認をしているが、誰にも報告していないので組織的な活動に

はつながらないのが残念である。所属する組織からの指示で安否確認をしても、指示要請を受けた組織への報告は56名中34名しかしていない(報告に関しては複数回答でも可能なので組織へ報告した上で他に連絡している場合も考えられる)。

表 20. 安否確認のきっかけと情報提供

	報告 けた組織への	指示・要請を受 けた組織への	族・親戚・知人 などへの報告	対象者の家	所の方へ報告	対象者のご近 所の方へ報告	誰にも報告し ていない	その他	合計
自分自身の判断	35	41	5	12	9	102			
所属する組織からの指示により	34	10	3	1	8	56			
近隣住民からの声かけがあったから	40	11	7	5	3	66			
公的機関からの要請により	77	14	0	3	2	96			
その他	40	8	0	5	15	68			
合計	226	84	15	26	37	388			

6. 安否確認の内容

ある意味、僅か4日間で終わった今回の大停電であるが、人々が吹雪く寒さの中でどのように安否確認を行ったか知ることは重要である。安否確認件数と安否確認に要した時間の関係を表21に示した。安否確認件数は延べ件数を聞き、所要時間は一日の最大時間を聞いているので、確認件数が多さと所要時間が相関しないところもあるが、確認件数が多くなるほど所要時間は長くなっている。

表 21. 安否確認件数別, 所要時間別人数

確認件数	1~10件	11~20件	21~30件	31~40件	41~50件	50件以上	無記入	合計
30分以内	44	3	0	0	0	0	1	48
1時間以内	57	10	1	4	1	0	1	74
2~3時間	20	20	15	7	3	12	2	79
4~5時間	2	4	8	1	4	4	0	23
6時間以上	3	1	3	2	4	5	0	18
その他	1	0	1	0	0	1	0	3
無記入	2	0	0	0	0	0	7	9
合計	129	38	28	14	12	22	11	254

表 22. 安否確認件数別, 安否確認を行ったきっかけ別人数

	1~10件	11~20件	21~30件	31~40件	41~50件	50件以上	無記入	合計
自分自身の判断	36	55	56	19	9	1	3	179
所属する組織からの指示	9	17	24	5	8	2	0	65
近隣住民からの声かけ	1	3	3	1	1	0	0	9
公的機関からの要請	2	2	11	0	1	1	0	17
その他	1	3	9	6	3	2	2	26
合計	49	80	103	31	22	6	5	296

どのようなきっかけで安否確認を行ったか、きっかけと安否確認件数の関係を調べたものが表22である。独自の判断で安否確認を行った人が積極的に安否確認を行っている様子がかがえるが、所属する組織からの指

示で安否確認をしている人は確認件数が多いように伺える。

具体的な確認内容を複数回答で求めた結果を表23に示した。もっとも確認していることは、暖をとれているかどうかで、災害時の状況を考えれば必要不可欠な質問である。50件以上安否確認を行った人がほぼ確認している内容は、「暖を取ることができているか」、「避難所情報の提供」、「食事をとれているか」、「健康状態」「不安や心配事」という順序になっているが10件以内の確認者は「暖を取ることができているか」、「健康状態」、「食事をとれているか」、「避難所情報の提供」、「不安や心配事」の順になっている。

表 23. 安否確認件数別、主な確認内容別別人数

	1～10 件	11～20 件	21～30 件	31～40 件	41～50 件	50件以 上	無記入	合計
健康状態	94	29	24	11	10	18	4	190
暖を取ることができているか	109	33	24	13	12	22	6	219
食事をとることができているか	59	19	21	10	10	19	3	141
トイレが使える状態か	15	4	3	4	3	4	4	37
入浴することができているか	4	1	1	0	1	3	0	10
不安や心配事はないか	42	20	12	9	7	18	2	110
災害情報の提供	30	16	9	9	7	11	1	83
避難所情報の提供	42	17	17	7	9	20	1	113
家族・親戚・知人などからの支援が 得られているか	22	13	14	5	8	10	3	75
生活を送る上で足りないものはないか	23	7	11	5	9	14	1	70
その他	3	0	0	0	1	1	1	6
合計	443	159	136	73	77	140	26	1054

停電期間はそれほど長期間にならないと考えられていたが、結果として4日間に及んだところまで出てしまった。安否確認の最初の確認事項は「暖を取ることができているか」であるのは当然のこととして、二番目の確認事項が一日目の時には「健康状態」であったものが4日目には「食事をとることができるか」も同じ重要さで確認されている。「避難所情報の提供」も期間の長期化に伴って重要性が高くなってきている。このように、長期化によって確認内容が少しずつ変化していることは、今後長期に及ぶかもしれない災害時の安否確認に関して、注意しながら検討しておく必要がある(表24)。

表 24. 停電日数別、主な確認内容別別人数

	一日	二日	三日	四日	無記入	合計
健康状態	44	81	34	31	0	190
暖を取ることができているか	55	94	36	33	1	219
食事をとることができているか	19	64	27	31	0	141
トイレが使える状態か	6	12	12	7	0	37
入浴することができているか	0	5	1	4	0	10
不安や心配事はないか	18	47	22	23	0	110
災害情報の提供	12	40	16	15	0	83
避難所情報の提供	11	52	26	24	0	113
家族・親戚・知人などからの支援が得られて いるか	9	27	19	19	1	75
生活を送る上で足りないものはないか	5	28	15	21	1	70
その他	2	1	0	3	0	6
合計	181	451	208	211	3	1054

安否確認をした対象者ごとの確認内容を調べても、対象者によって大きな変化は見られない(表25)。ただ、一人暮らし高齢者世帯に「家族・親戚・知人などからの支援が得られているか」という確認はしづらい内容かもしれない。日常的な関係があれば問題なく尋ねられるものであっても、災害時だけの関係の中では聞きにくい問題かもしれない。地域福祉の推進役である社会福祉協議会はこのような問題点を明らかにしながら、地域のまちづくりにまい進しなければならない。

表 25. 対象者別、主な確認内容別別人数

	一人暮らし 高齢者世帯	高齢者夫婦 世帯	日中一人暮らし 高齢者世帯	障がい者 世帯	子育て 世帯	世帯 疾病のある 方がいる	その他	合計
健康状態	178	97	64	39	9	24	22	433
暖を取ることができているか	197	111	68	43	11	26	28	484
食事をとることができているか	131	81	52	35	10	21	18	348
トイレが使える状態か	31	24	18	9	2	5	8	97
入浴することができているか	9	6	7	4	2	5	1	34
不安や心配事はないか	101	64	40	32	7	17	15	276
災害情報の提供	78	53	28	21	7	12	10	209
避難所情報の提供	103	71	40	31	8	18	19	290
家族・親戚・知人などからの支援が得られているか	71	47	37	19	6	15	12	207
生活を送る上で足りないものはないか	63	47	28	22	6	14	11	191
その他	6	6	4	1	1	0	3	21
合計	968	607	386	256	69	157	147	2590

7. 日常的な福祉活動と災害時の活動

登別市社会福祉協議会は北海道の中でも地域福祉活動を盛んに行っていると私たちは認識している。この日常的な地域活動が、今回の災害時にどのように役立ったか、また今後どのような日常的な活動をすれば災害時にも適切な活動ができるか調べるのが、今回のアンケートの大きな一つの目的でもあった。日常活動が盛んに行われていたとしても、行事をこなすだけの組織になっていけば、今回のような突発的な問題に対応できる能力は組織の中に存在しないことになる。社会福祉協議会が求めるものは、日常的にもしっかりと地域に根差した活動を展開しながら、災害時には日常的な活動を通して獲得した力を十分に発揮できるように組織を考えていかなければならない。

少なくとも今回の停電によって、住民の皆さんがそれなりに安心して健康な生活を送れるように見守ることができるよう、社会福祉協議会が住民の皆さんの協力を得て活動できたかを考える必要がある。このことよりもっと大切なことは、今回の停電に伴った活動に社会福祉協議会が市役所からも住民からも必要とされ、期待されていたかである。言い換えれば、社会福祉協議会の日常活動が、今回のような必要な時に大きな役割を担えるだけの力を創造していたか問われているのである。

日常的な活動への取り組みと今回の停電時の安否確認の取り組みの関係を調べ、表26, 27, 28に示した。

表26から、日常的な取り組みをしている人は安否確認にも参加された人が多いことは喜ばしい。日常的な取り組みに参加していない人の半数弱の人が安否確認には参加してくれたことは意味のあることで、日常的には参加されなくとも必要な時には手を貸してくださる重要な人々である。残念なのは約12%の人がどちらにも参加していないことである。個別的には色々な問題があっても参加したくても参加できなかったかもしれないが、この割合をできる限り少なくすることが、住民の手による地域福祉への一歩であることは間違いない。

表 26. 日常活動の有無と安否確認の有無別件数

		安否確認の有無			合計
		あり	なし	無記入	
日常的な 取り組み	あり	183	102	16	301
	なし	47	57	4	108
	無記入	24	29	10	63
	合計	254	188	30	472

表 27. 安否確認の有無別, 日常活動の有無別割合

		安否確認の有無			合計
		あり	なし	無記入	
日常的な 取り組み	あり	72.0	54.3	53.3	63.8
	なし	18.5	30.3	13.3	22.9
	無記入	9.4	15.4	33.3	13.3
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表 28. 日常活動の有無別, 安否確認の有無別割合

		安否確認の有無			合計
		あり	なし	無記入	
日常的な 取り組み	あり	60.8	33.9	5.3	100.0
	なし	43.5	52.8	3.7	100.0
	無記入	38.1	46.0	15.9	100.0
	合計	53.8	39.8	6.4	100.0

今回安否確認をした人のうちの72%の人が日常的な取り組みに参加しているが、日常的な取り組みをしている人の60%しか安否確認をしていない。突発的な事故に対する行動は日常的に活動しているほうが行いがやすいが、日常的な活動をしているからと言って、突発的な活動ができることを意味しない。問題はほとんどの場合突発的に起こるので、突発的な場合に反応できる姿勢を身に着けるように日常的な活動を組織する必要がある。

表 29. 担っている役割別, 日常的取組と安否確認有無の組み合わせの割合

		日頃の活動×安否確認の有無				合計
		あり×あり	あり×なし	なし×あり	なし×なし	
担 っ て い る 役 割	町内会長	68.9	9.8	18.0	3.3	100.0
	福祉部長	66.7	25.9	3.7	3.7	100.0
	民生委員児童委員	74.0	3.9	14.3	7.8	100.0
	福祉委員	33.3	43.2	4.9	18.5	100.0
	福祉協力員	45.7	30.4	8.7	15.2	100.0
	ケアマネジャー	36.4	13.6	45.5	4.5	100.0
	福祉サービス事業所職員	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0
	きずな推進委員	67.4	13.0	17.4	2.2	100.0
	サロンサポーター	49.1	35.1	3.5	12.3	100.0
	その他	44.3	26.6	11.4	17.7	100.0
	役割無し	26.3	26.3	15.8	31.6	100.0
	合計	52.7	23.6	12.2	11.6	100.0

日常的な取り組みと災害時の活躍の関係を調べるのが今回の目的の一つであったが、その方法が分からず、日常的な取り組みの有無と安否確認の有無の組み合わせを考えた上で、もう一つの要素を組み込むことによ

て関係性を調べてみた。この準備として分析したのが、表26から28までの集計であった。

表29は、担っている役割が日常的な取り組みや災害時の安否確認にどのような影響を与えたか調べたものである。たとえば、町内会長も福祉部長も日常的な取り組みにも災害時の安否確認にも70%近くの人が参加していて素晴らしいが、町内会長は日常的な活動よりも災害時の活動に積極的にかかわる傾向があるが、福祉部長は日常的な活動により積極的であったことがうかがえる。このように調べていくと、民生委員児童委員やケアマネジャーも町内会長と同じ傾向を示しているが、福祉委員、福祉協力員やサロンサポーターは福祉部長のような傾向を示している。福祉サービス事業所職員は特別で今回の災害時の安否確認には誰一人参加していないが、これはおそらく事業所の業務で手が離せなかったのではないかとと思われる。このような状況を考えると日常活動にいかにか様々な職種の人々の協力を得て活動を展開しているかで、非常時の活動も適切にできるように思われる。

安否確認以外にどのような活動をしたかを日常的な取り組みの有無と安否確認の有無との組み合わせから見ると、表30のようになる。日常的な取り組みも安否確認もしなかった人々でも多くの人が安否確認以外の活動をしていることに驚かされるとともに力づけられるが、日常的な取り組みをしている人が多くの安否確認以外の活動を展開しているので、日常活動の重要さが確認された。特に災害情報収集や関係機関との連絡調整は、日常活動とか安否確認の有無にかかわらず積極的に行っていたようである。

表 30. 安否確認以外の活動別、日常的取組と安否確認有無の組み合わせの割合

		日頃の活動×安否確認の有無				合計
		あり×あり	あり×なし	なし×あり	なし×なし	
安否確認の他、被災時にどのような活動をしたか	公設避難所運営への協力	16	3	3	4	26
	公設避難所への移送・誘導	22	0	2	1	25
	自主避難所の運営	16	2	3	1	22
	避難者への食事の提供	18	2	2	2	24
	避難者への物資の提供	23	0	3	1	27
	関係機関との連絡調整	42	7	17	5	71
	災害に関する情報収集	84	26	17	16	143
	その他	21	18	6	14	59
	無記入	48	55	16	24	143
	合計	290	113	69	68	540

表 31. 日常活動の有無と安否確認の有無のグループ別、安否確認以外の活動内容別件数

		日頃の活動×安否確認の有無(件数/人数)				合計
		あり×あり	あり×なし	なし×あり	なし×なし	
安否確認の他、被災時にどのような活動をしたか	公設避難所運営への協力	0.09	0.03	0.06	0.07	0.07
	公設避難所への移送・誘導	0.12	0.00	0.04	0.02	0.06
	自主避難所の運営	0.09	0.02	0.06	0.02	0.06
	避難者への食事の提供	0.10	0.02	0.04	0.04	0.06
	避難者への物資の提供	0.13	0.00	0.06	0.02	0.07
	関係機関との連絡調整	0.23	0.07	0.36	0.09	0.18
	災害に関する情報収集	0.46	0.25	0.36	0.28	0.37
	その他	0.11	0.18	0.13	0.25	0.15
	無記入	0.26	0.54	0.34	0.42	0.37
	合計	1.58	1.11	1.47	1.19	1.39

当然のことであるが、安否確認以外の災害時の活動内容を行ったそれぞれの件数を、日常的な取り組みと安否確認の有無の組み合わせのグループごとの人数で割った数字を示した表31でも確認できる。表31は組み合

わせグループの人が、安否確認以外のどの項目に多く注目したかがより明確にわかる資料でもある。当然のことではあるが、日常的な取り組みの有無よりも安否確認の有無のほうが安否確認以外の活動との相関がある。安否確認が人々が必要としている問題点を浮き彫りにした結果である。

最後に、日常的な取り組みの活動別の安否確認の有無を表 32 に示したが、「ふれあいイキイキサロン」と「ご近所同士が顔を合わせる場づくり」の活動に参加している人々が、安否確認をしなかった人の割合が高いが、ほかの活動は圧倒的に安否確認をした人の割合が高い。

表 32. 日常活動別、安否確認の有無

	安否確認した	安否確認しなかった	無記入	合計
公設避難所の運営協力	19	7	2	28
防災備品の整備	24	1	1	26
避難マップの作成	20	4	3	27
要支援者台帳の作成	20	3	1	24
連絡網の作成	26	1	0	27
見守り訪問活動	58	12	0	70
ふれあい会食会	103	45	4	152
ふれあいイキイキサロン	27	37	3	67
ご近所同士が顔を合わせる場づくり	23	32	3	58
合計	320	142	17	479

8. おわりに

今回のアンケート結果を分析して、今回の大停電という事故に対して多くの人が活動したことがうかがえる。また、社会福祉協議会が日常的な活動に熱心に取り組んでいることやその後の活動に今回の事故に対する活動の反省を真摯に取り組もうとしている。

災害時に人を助けるという活動の中でジェンダー的な要素が存在するか確認の意味もあって分析してみたが、想定していたように差異がなかった。差異があるとすれば、情報の収集の仕方に少しの差があった程度である。

担っている役割がどのような意味を持つのか今一度考える必要があると思うが、今回のアンケートの役割は福祉関係の役割を論じたもので、地域全体の組織としてとらえているわけではないので、十分な分析になっているとは思えないが、役割を担う意識の高さは示されていると思う。名誉職としての役割でなく、実質的な役割であることがうかがえる。

日常的な取り組みの有無と安否確認の有無との関係、この関係が今回の活動に与えた影響を分析するのに非常に苦労したが、皆様のお考えご意見を頂ければ幸いである。

この登別市社会福祉協議会の一連の活動をすべて HP 上で公開できるように最終的なまとめに取り掛かっている。これを合わせてご意見をいただき、ますますこの地域の福祉が向上させることができるように願うばかりである。

今回の活動に参加してくださった皆様にこの紙面を借りて感謝申し上げます。

参考文献

下に羅列したものが参考資料であるが、今回のアンケートをまとめるときまでに開催されたり、まとめられた会議などの登別社会福祉協議会での全記録である。

暴風雪による大規模停電に伴う登別市社協の活動報告書【全4日間】

12月3日理事会資料【暴風雪による大規模停電に伴う活動の状況速報】

暴風雪による大規模停電に伴う炊き出し業務報告書【最終】

避難所確認事項 29日1回目

避難所確認事項 29日2回目

避難所確認事項 30日1回目

12月21日第9回三役会資料

【大規模停電時における地域の取り組みと見えてきた課題について】

12月5日第1回若草小学校区きずな推進委員会記録（まとめ）

12月11日平成24年度小地域ネットワーク研修会記録シートまとめ

12月18日第3回幌別小学校区きずな推進委員会記録（まとめ）

大規模停電に係る社協活動のふりかえり【正職員】

大規模停電に係る社協活動のふりかえり【総務・地域福祉課】

暴風雪による大規模停電に関するアンケート調査票【確定版】

アンケート分析の視点（案）

H25.2 暴風雪アンケート 入力仕様書

町内会長へのアンケート調査におけるコメントに見る重要な指摘

登別市停電災害2012アンケート調査報告（社協中心）

暴風雪アンケート

2. 幌別東小学校区 (幸町・幌別町)
3. 幌別小学校区 (札内町・来馬町・新栄町・千歳町・常盤町・中央町)
4. 幌別西小学校区 (柏木町・富士町・新川町・片倉町・鉦山町)
5. 青葉小学校区 (桜木町・緑町・青葉町・若山町1～2丁目)
6. 富岸小学校区 (若山町3～4丁目・富岸町・大和町・新生町・栄町3～4丁目)
7. 若草小学校区 (若草町・美園町)
8. 鷺別小学校区 (栄町1～2丁目・鷺別町)

(3) あなたの担っている役割 (あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 町内会長 | 2. 福祉部長 |
| 3. 民生委員児童委員 | 4. 福祉委員 |
| 5. 福祉協力員 | 6. ケアマネジャー |
| 7. 福祉サービス事業所職員 (種別) | |
| 8. きずな推進委員 | 9. サロンサポーター (代表・担当者含む) |
| 10. その他 () | |

(4) 今回の被災状況

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 被災していない | 2. 1日以内に復旧した |
| 3. 2日以内に復旧した | 4. 3日以内に復旧した |
| 5. 4日目に復旧した | 6. その他 () |

(5) 被災時の情報の入手方法 (あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. テレビ | 2. ラジオ |
| 3. 携帯電話・インターネット | 4. 地域の町内会・民生委員からの情報提供 |
| 5. 家族・親戚・知人等からの連絡 | 6. 所属する組織からの情報提供 |
| 7. 市広報車 | 8. 防災無線 |
| 9. その他 () | |

II. 暴風雪による大規模停電に関することについて、お尋ねします。

(1) 要援護者世帯への安否確認 (電話、訪問等形態を問わない) を行いましたか？

1. はい → 《1-A》以降の質問にお答えください。
2. いいえ → 《2-A》以降の質問にお答えください。

※ (1) で「1. はい」と答えた方は、次の質問にお答えください。

《1-A》 安否確認をいつから行いましたか？ (あてはまる項目1つに○をつけてください。)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 停電前 | 2. 停電後1日以内 |
| 3. 停電後2日以内 | 4. 停電後3日以内 |
| 5. 停電後4日以内 | 6. 通電後 |

《1-B》 誰を対象に安否確認を行いましたか？ (あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 一人暮らし高齢者世帯 | 2. 高齢者夫婦世帯 |
| 3. 日中一人暮らし高齢者世帯 | 4. 障がい者世帯 |
| 5. 子育て世帯 | 6. 疾病のある方がいる世帯 |
| 7. その他 () | |

(あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 町内会長 | 2. 福祉部長 |
| 3. 民生委員児童委員 | 4. 福祉委員 |
| 5. 福祉協力員 | 6. ケアマネジャー |
| 7. 福祉サービス事業所職員(種別) | 8. サロンサポーター(代表・担当者含む) |
| 9. 社会福祉協議会職員 | 10. 地域包括支援センター職員 |
| 11. その他() | |

→続いて(2)の質問へお答えください。

※(1)で「2. いいえ」と答えた方は、次の質問にお答えください。

《2-A》 安否確認を行わなかった理由は？(あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 被災が少なく、行う必要がなかった | 2. すぐに復旧するだろうと思っていた |
| 3. 他の仕事があった | 4. 旅行・外出等で自宅に不在だった |
| 5. 組織の他のメンバーが役割を担ってくれた | |
| 6. その他() | |

(2) 安否確認の他、被災時にどのような活動を行いましたか？(あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 公設避難所運営への協力 | 2. 公設避難所への移送・誘導(件程度) |
| 3. 自主避難所の運営 | 4. 避難者への食事の提供(件程度) |
| 5. 避難者への物資の提供(件程度) | 6. 関係機関との連絡調整 |
| 7. 災害に関する情報収集 | 8. その他() |

(3) 災害に備えて日頃に行っている取り組みはありますか？

- | |
|----------------------------|
| 1. はい → 《3-A》以降の質問にお答えください |
| 2. いいえ → (4)以降の質問にお答えください。 |

※(3)で「1. はい」と答えた方は、次の質問にお答えください。

《3-A》 どのような取り組みをしていますか？(あてはまる項目すべてに○をつけてください。)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 避難訓練 | 2. 防災備品の整備 |
| 3. 避難マップの作成 | 4. 要援護者台帳の整備 |
| 5. 連絡網の作成 | 6. 見守り訪問活動 |
| 7. ふれあい会食会 | 8. ふれあいいいききサロン |
| 9. ご近所同士が顔を合わせる場づくり() | |
| 10. その他() | |

《3-B》 被災時、前項で○をつけた取り組みの効果はどのように発揮されましたか？

[]

→続いて(4)の質問へお答えください。

(4) 今回の災害を受けて、どのようなことを課題と感じますか？

[]

(5) 今回の災害を受けて、今後地域でどのような取り組みが必要だと思いますか？

[]

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。